

新春旗開き議長挨拶



日頃より、学研労協の活動に、ご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。
筑波研究学園都市地区に立地する研究機関等の労働組合で構成する協議体である学研労協は、組合員の生活と権利を守り、研究条件や労働条件の改善と社会的地位の向上をめざして活動しています。

新型コロナウイルス感染症では、次々とウイルスの変異も起こり、国内では、現在は第8波として、全国的に感染が拡大しています。重症化リスクは低下してきているとされていますが、感染拡大に歯止めがかからなければ医療逼迫が繰り返されてしまいます。私たち一人一人ができる感染防止対策を継続する必要があります。この長引くコロナ禍は、雇用・労働に影響を及ぼしています。とくに非正規労働者の解雇や雇い止めは、深刻な問題です。雇用を守る取り組みが必要です。

さらに、昨年2月以降、ロシアによるウクライナへの侵攻が続いており、現地では多くの人々が亡くなり、これまでの世界秩序も大きく乱されました。わが国においても平和への不安が高まるとともに、生活物資の価格高騰が止まらず、我々の労働環境、暮らしは厳しい状況に追い込まれています。

これらのコロナ禍や世界情勢の変化を受け、我々の生活や働き方、価値観から、社会・経済システムまでもが大きく変貌する時期を迎えているのかもしれない。

さて、本年の新春旗開きは、3密や対面を避けるため、リモートでの開催となりました。新型コロナウイルス感染症への対応のみならず、運営費交付金、賃金格差や長時間労働など職場内外で様々な課題に直面しています。こういうときこそ、労働組合の存在意義と果たす役割は大きく、一致団結して立ち向かいましょう。

最後に、本年が皆様にとって健やかで実り多い年であることを祈念し、新春旗開きのあいさつといたします。